

りんごのハダニ類防除体系の改定

岩手県のハダニ類防除体系は、薬剤抵抗性獲得回避のため、殺ダニ剤を基幹防除剤と補完防除剤に区別した独自の体系である。しかし、近年は基幹防除剤の防除効果が十分でない園地も見られるようになったため、平成11年度に代替基幹剤としてエトキサゾール水和剤を組み込んだ防除体系の改定を行った。また、併せて補完防除剤にミルベメクチン乳剤を追加した。

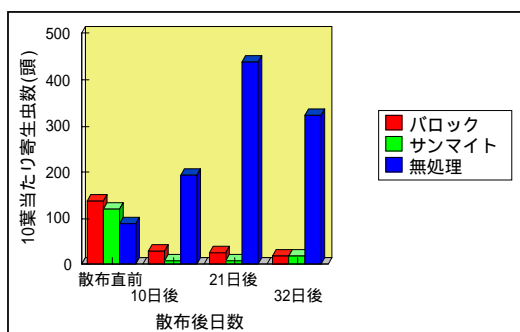


図1 パロックフロアブルのナミハダニ防除効果(H5 岩手園試)

ミルベメクチン乳剤(コロマイト)1,000倍液は、土壌放線菌の産生する有効毒素を主成分とした新規殺ダニ剤であり、他剤との交差抵抗性は認められていない。りんごハダニとナミハダニの全ての発育ステージに有効である。ただし、残効期間は約1カ月と長くないため、補完剤として利用する。

一部の展着剤(サントクテン、ハイテン、プラテン、ミックスパワー)との混用は薬害を助長することがあるので、加用しない。

エトキサゾール水和剤(パロックフロアブル)2,000倍液は、ヘキシチアゾクス水和剤(ニッソラン水和剤)2,000倍液と同様に殺成虫効果はないが、りんごハダニおよびナミハダニに対して殺卵・殺幼虫効果に優れる特徴があり、ニッソランと同等の扱いが可能である。

また、現在のところ各ダニ剤との交差抵抗性は認められていないが、2~3年に1回の使用とする原則を遵守する。

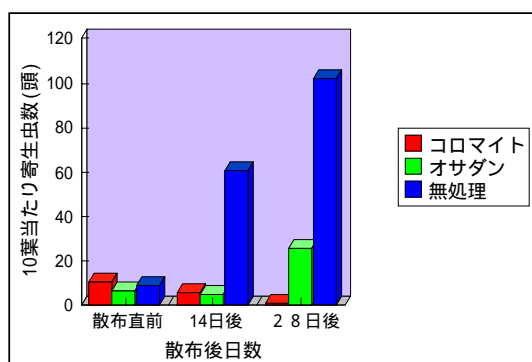


図2 コロマイトのナミハダニ防除効果(H10 岩手農研セ)

表1 りんごのハダニ類防除体系(平成11年度岩手県防除基準より一部抜粋)

ハダニ類発生状況	防除体系	休眠期	6月		7月		8月			9月
			下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	
りんごハダニ越冬卵 多		マソ油	ナミハダニの発生状況により下欄の体系と組み合わせる							
りんごハダニ越冬卵 少 かつ ナミハダニの中期発生量 中~多			*							()
					*					()
						*				()
										()

: ニッソラン水和剤, カーラフロアブル * : パロックフロアブル
 : ダニトロンフロアブル, サンマイト水和剤, ピラニカ水和剤, マイトクリーン
 : オサダン水和剤, オマイト水和剤, コテツフロアブル, コロマイト乳剤

注1: グループ, *グループ, グループはそれぞれ3年に1回または2年に1回の隔年使用とし、毎年連用しない。
 注2: () は一般に省略可能であるが、ときには必要なこともある。